臺灣日日新報（夕刊）（號外）（皇紀二六〇一年五月九日第二種郵便物認可）昭和十一年十二月一日

南支の風雲急

大部隊を集結して 厦門島の防備に狂奔

"最後の一兵迄"と豪語するも 市内は早くも混亂狀態

陳儀戰々兢々で防備

【香港三十一日發同盟】我が海軍の金門島占領以來余漢談は厦門防衛司令黃壽を激勵して厦門島の防備を嚴重にするとともに漳州、漳浦、同安等の各地に大部隊を配し福建南部方面の防備を固め新鋭飛行機も既に派遣して某地に待機せしめてゐると謂はれるが黃壽は「余は最後の一人になるも厦門を死守する」と豪語し盛んに抗戰熱を煽つてゐる、これがため厦門市内は混亂狀態に陷り市民の逃避するもの簇出しつゝあり恐怖政治を現出してゐるのは殺々極刑に處されつゝあり恐怖政治を現出してゐる、なほ鼓浪嶼に在る各國領事團は早くも厦門に戰鬪發生の際の方針につき協議中である

【上海一日發】我陳戰隊の金門島占領に肝を潰したる福建省主席陳儀は泉州漳州附近の防備を益々嚴にし戰々兢々たる有樣なり

【上海一日發同盟】廈の上流背面防衛の最終陣地として金城鎭を選つた廈門島の防備は新鋭飛行機も既に派遣して某地に待機せしめて居ると謂はれるが黃壽は「余は最後の一人になるも廈門を死守する」と豪語し盛んに抗戰熱を煽つてゐる、これがため廈門市内は混亂狀態に陷り市民の逃避するもの簇出しつゝあり恐怖政治を現出してゐる、なほ鼓浪嶼に在る各國領事團は早くも廈門に戰鬪發生の際の方針につき協議中である

【香港三十一日發同盟】我が海軍の金門島占領以來余漢談は厦門島の防備を嚴重にするとともに漳州、漳浦、同安等の各地に大部隊を配し福建南部方面の防備を固め新鋭飛行機も既に派遣して某地に待機せしめてゐると謂はれるが黃壽は「余は最後の一人になるも厦門を死守する」と豪語し盛んに抗戰熱を煽つてゐる、これがため厦門市内は混亂狀態に陷り市民の逃避するもの簇出しつゝあり恐怖政治を現出してゐる、なほ鼓浪嶼に在る各國領事團は早くも厦門に戰鬪發生の際の方針につき協議中である

【上海一日發】我陳戰隊の金門島占領に肝を潰したる福建省主席陳儀は泉州漳州附近の防備を益々嚴にし戰々兢々たる有樣なり

陳儀戰々兢々で防備

上海戰に輝く武勳 陸軍飛行隊

大場鎭、江灣鎭の戰鬪に參加し 連日陣地爆擊に奮戰

【上海一日發】我陸戰隊の金門島占領に肝を潰したる福建省主席陳儀は泉州漳州附近の防備を益々嚴にし戰々兢々たる有樣なり

【上海一日發】我陸戰隊の金門島占領に肝を潰したる福建省主席陳儀は泉州漳州附近の防備を益々嚴にし戰々兢々たる有樣なり

租界を背に抵抗 渡河敢行の皇軍を 卑怯な戰法で惱ます

【上海州一日發同盟】飯の上流背面防備の最終陣地として金城鎭を選つた飯州河南岸の陣地一角もわが猛攻撃に遭ひ、遂に飯州河南岸の河畔自來水の自然の要害地物を利用した陣地に支那兵を追ひ金城鎭にて猛攻撃を開始【香港二日發】二十一日午前十一時我が海軍機は珠江口大角山砲臺を爆撃し支那軍の要塞一部に命中せしめた後午後一時半より再び支那軍の集中し居る砲臺に對し爆撃を加へ一方陸上よりも攻撃を敢行したが支那兵は頑強に抵抗し我が軍の進撃意外に困難を極めてゐる

【上海州一日發同盟】飯の上流背面防備の最終陣地として金城鎭を選つた飯州河南岸の陣地一角もわが猛攻撃に遭ひ、遂に飯州河南岸の河畔自來水の自然の要害地物を利用した陣地に支那兵を追ひ金城鎭にて猛攻撃を開始【香港二日發】二十一日午前十一時我が海軍機は珠江口大角山砲臺を爆撃し支那軍の要塞一部に命中せしめた後午後一時半より再び支那軍の集中し居る砲臺に對し爆撃を加へ一方陸上よりも攻撃を敢行したが支那兵は頑強に抵抗し我が軍の進撃意外に困難を極めてゐる

渡河敢行の皇軍を 卑怯な戰法で惱ます

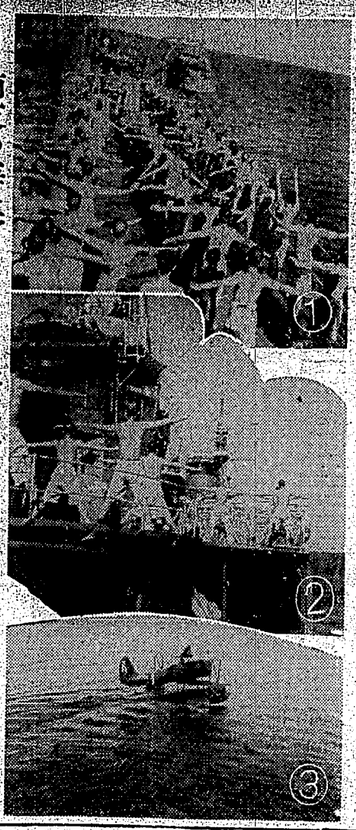
皇軍猛進撃 堅壘・廣福に迫る

【廣東七日發】二十一日發同盟特派員】劉家行西方約四粁の廣福は大場鎭にも匹敵すべき敵軍の有力陣地で南翔防衛の爲め無數のトーチカを築き塹壕には一尺の角材を積み重ねた上に二段にレールを積み更に其上に二米乃至三米の厚さに粘土で堅めてゐる、それと連絡して無數の交通壕が掘られ巨大な戰車壕すらも築かれてゐる、この陣地を攻める我が將士の苦闘は筆舌に盡せぬものがあるが、ひた押しに押寄せる我軍の前にはこの堅陣も今や風前の燈火となつてゐる

敵陣潰滅は日暖

【上海州一日發同盟】南翔前面の突角陣地廣福に據る敵軍はわが戰車隊に依り其の東端を一度蹂躙されたにも拘はらず強固な陣地を頼りとして意外に頑強に抵抗しつつあるがわが各部隊は肉彈に肉彈の果敢な攻撃を加へる事十七時間この間廣福側面の新木橋、藏家宅、楊陸宅等各陣地を占領しじり〳〵と敵の心臟部を壓迫しつつあり一方敵の退路を斷つべく素早く〇〇方面に行動中の倉林部隊と相呼應し包圍殲滅戰を完成したので今や廣福の敵陣地潰滅も目睫に迫りわが軍の士氣は頗々旺んなものがある

南支の海上で



南支の海上でハリキル海軍將士（1）甲板上の體操（2）機關作業（3）勇躍出發せんとする〇〇艦戰機

周家橋占據、劉河鎭へ

【上海三十一日發同盟】上海軍報道部發表、〇〇部隊の一部は昨三十日新鎭附近に對する攻撃を開始し周家橋其他の諸村落を占據し當面の敵を擊退劉河鎭に向け壓迫中

小南翔の敵陣危し

勇躍敵大部隊を追撃

（眞茄卅一日發同盟）安達部隊壓下道下部隊は謝家宅を參取後細見部隊戰車〇臺の協力の下に馬路灣の敵陣に攻撃を加へ何等の損傷なくして午後四時これを完全に占據し更に敵大部隊を追撃しつつあり小南翔占據は眼前に在る

殊勳！藤田戰車隊

天晴れ敵前橫斷を敢行 兩部隊の進出を援く

【上海三十一日發同盟】安達部隊壓下道下部隊は謝家宅を參取後細見部隊戰車〇臺の協力の下に馬路灣の敵陣に攻撃を加へ何等の損傷なくして午後四時これを完全に占據し更に敵大部隊を追撃しつつあり小南翔占據は眼前に在る

補充隊は 鳥合の衆

強制して狩集め

【上海一日發】支那軍は引續く敵者に補充につく補充の着隊にて訓練は全く無視され逃亡に逃亡をつゞけ逃亡に逃亡をつゞけ逃亡に逃亡をつゞけ

我が戰車の威力に敵は武器を投げ潰走

近來稀に見る激戰を演じ謝家宅一帶を占據

【虎林無線特電二十一日發同盟】虎林北部戰線激戰續く、特電】上海北部戰線激戰續く、特電】上海北部戰線激戰續く、特電】上海

小學兒童の理科とお母様の心構へ

來るべき科學時代への一段階

伊波直榮

子供といふものは、ちよつとの間も、おつとしてゐられないもので、十分の間も、何かやつてゐなければ承知しないもののやうです。

□

都會の子供は殆んどで製作遊具すら、一種一類の玩具を買ひ、次次に考へ出されるこれらの玩具を見るにつけ、いろく興味されることにもありますが、飽らくもあるんで後はすつかり忘れて、顧みないといふのが多いやうです。そして次から次へと新しい物を欲しがるものであります。

□

これは誠る特殊な一例を施してゐる点にだけ興味を感じて、一時それに夢中になりますが、その理由なり原因なりが、はつきりわかつて來ると、捨てしまふやうです。

□

親として見れば、勿體なく、勿體なく思はれるのですけれども、こんな時、一、二ケ月しまつておいて、その後ふとして現れたんだらうか、玉夫故見する感覚はなかつたらう、或は同種の玩具と比較して見て、その優劣の比較点をきいて見ることにでもして下さるとこれ又興味で、ちよつと作つてやらうといふ製作心が湧き起るものです。

□

かうすると使用、製具、工夫、改良といつた観性物が表れたり、当や大切にする觀念が養はれたり、当の事物をふりに戻る銀が出來たりして一擧る所は少くないと思ふ

□

子供が何か作つてゐる場合、親は凡物其他の危険物の危險、怪我の事のみ先に心配して、或は玩具その物を大切にする餘り、「汚い、「汚い、「壊れるから」の觀念を與へたがらない風をしたりする方をよく見受けますが、これも一考を要します。やはり或る範圍まで子供の製作動機は敏重して、「壊つて困る」な所は手傳つてやる位の親切があつて欲しいと思ひます

□

自動車や飛行機の型の名などは知つて子供の方がよく知つてゐるやうに、動物に對して子供は特別の興味を感するものです。そこで、親としても、飛んでゐる飛行機の名や、魚の名位は、出來るだけ澤山覚えておいて、子供によく實物と名稱とを教へてやる位の親切があつて欲しいと思ひます

□

花は花でも、植物の名を知らぬ婦人が多かつたり、料理はうまくとも、裁縫がまづかつたり、家事一般に何となく不熱心にやつてゐるといふやうな婦人の方が、案外多いやうです。

□

市役所衛生課では「チフテリア」非常發生の場合——倉庫の場合のやうにして吐き出させ、醫師、藥劑師などに連絡を行ひ、更に、硫酸マグネシアまたはヒマシ油）及び炭末を飲ませること

——◇——

毒來、發疹、窒クローム酸加里の場合——倉庫の場合のやうにして吐き出させ、醫師、藥劑師などに連絡を行ひ、更に、硫酸マグネシアまたはヒマシ油）及び炭末を飲ませること

——◇——

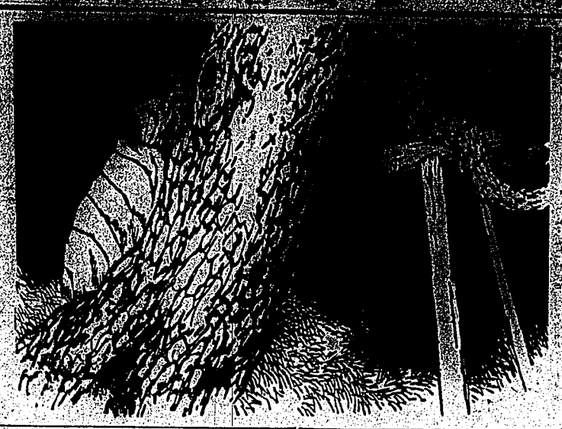
カルモチン、その他の催眠劑の場合

國定忠次 (94)

長谷川伸作
岩田專太郎畫

（全四回）

本陣の前（十二）



「いいえ、さうではございません」

「そして、あ、さうか、お前さん、監を開つていへば忠次さんを思つてゐる、ねえ、さうだらう」

今宵はなの盃を待つたが、いつまでも黙つてゐるので、

「では開くが」

と、いひかけた時、女は男のやうに強い調子で、

「嫌わないといふのは仕様がございません。いつても結構ですからお思さんにお話しなすつて下さいませんか。福島にるお監といふ女が、來ることは來ましたが、何處かへ行つてしまひました」

と。では、お盃ひ申します」

お監は黙り中へ唇を挟んで消えた。それを今宵は格別に見遣つて、

「——それも良からう、我が思ふ通りには成らねえのが世の中だからな」

「それは開くが」

「いいえ、さうではございません」

「そして、あ、さうか、お前さん、監を開つていへば忠次さんを思つてゐる、ねえ、さうだらう」

今宵はなの盃を待つたが、いつまでも黙つてゐるので、

「では開くが」

「嫌わないといふのは仕様がございません。いつても結構ですからお思さんにお話しなすつて下さいませんか。福島にるお監といふ女が、來ることは來ましたが、何處かへ行つてしまひました」

と。では、お盃ひ申します」

お監は黙り中へ唇を挟んで消えた。それを今宵は格別に見遣つて、

「——それも良からう、我が思ふ通りには成らねえのが世の中だからな」

「お監はどうしたのだ」

「いや、聞くだけ野暮だ、お前さんの胸に聞いてみるがいい」

「ひきょう、何だかいふが良い男に聞かれちゃならない、どれ、盃のかれ」

「さうかね、この盃は所縁の盃、男と女とでは、と、いふよりも人は人それぞれで、前々なんだから止めにして、思めて開くが、忠次さんを何だと思れてきたんだね」

「お目にかかりたくて參りましたが——今その松の木のうしろで聞いて居ましたが當せとやらで、情我をすつたさうですが」

「般等はう云つてゐるが、第人に惚つて貰えねえと、それが本當か嘘か判らないね」

「あなたはどう思つておるのでせう」

「嘘かい、嘘は忠次さんは商賣だと思つてゐる——お前さんは忠次さんと約束をもあるのかい」

「いいえ」

「約束なんて、何でもねえが、いくら何でも、女房に化けてまで

最初の海戦であり、恐らく今後はないことでせう、而も世界でも珍らしい艦隊合の下の大會戦殊な海戦なのですから聴く触れて置きたいものです

T中佐　それや開の海戦で敵艦を撃滅したことですよ

記者　開戦の海戦は、支那事変

水兵さんの銃劍術

岡山本社特派員撮影

——臺灣總督府許可濟——

カナ文字ニュース

△三十一日正午カラ蘇州河南岸ノ敵ヂンチニ總ユウゲキヲ カイシシタ ワガ軍ハ田上部隊ガ マッサキニ ナッテ 河ヲ ミゴトニ ワタリ 敵ヂンチニ セマッテキマス

△山東省ノ 濟南デ 韓復榘ノ ヘイタイト 白崇禧ノ ヘイタイガ ケンカヲ ハジメ 濟南ハ 大コンランニ ヲチイッテ キルサウデス。マタ 韓復榘ハ 白崇禧ニ カンキンサレタト モッタヘラレテキマス

日露戰爭當時の劇壇

獨り氣を吐く"桐一葉"(五)

中山楠雄

先づ興行の成績は日露戰爭が開かれてまだ間の無い時分であり、世間一般が不景氣であつて、各座は二座に興行物を上演して入場をひくつもりではあつたが、その脚本に對する干渉が嚴重で、依りたくもないものまで上演されてゐる

この時の男女は「桐一葉」の初演でもあり、またかうした劇物を歌舞伎座が演じた事も時局柄を思はせて面白いし、「すくわれぬ獨の非常な大人りであつたり

厦門沖五十日の鬱憤も

虎門海戰で吹飛ぶ

軍艦〇〇士官室座談會 (3)

（海軍省檢閱濟）

我が遮斷下の南支那海を語る

T中佐　航海長、谷口モンスンの話をしたらどうです。

N少佐　ノースイースト・モンスン、東北の季節風ですね、これは十月から四月まで南支の海をひつきりなしに吹き通すのです。全く航海者にとつて嫌つて嫌もない位です。やつて來る。台風の風が吹き荒れて木も折ねばたまに風がない時は歩く樣いうだ、この中で航海するのには二番勞する。

記者　さうでせうね、十月三日の颱風には驚かされました、山なす怒濤だつた、聞くところによると、あの月頃の颱風が吹き荒れて木も折ねばたまに風がない時は歩く樣いうだ、この中で航海するのには二番勞する。

記者　さうでせうね、十月三日の颱風には驚かされました、山なす怒濤だつた、聞くところによると、あの月頃の颱風が吹き荒れて木も折ねばたまに風がない時は歩く樣いうだ、この中で航海するのには二番勞する。

N少佐　モンスンの時期には四六時中南から風に吹られて大さくうねりを持つてゐる、颱風の時の海波のうねりの大きな奴になると長さ五十加至百尺、高さ二十米位のものがあつて、この怒濤に逆らふまでの司令官以下我々の氣持つたらまるで名狀し難いものだつた。北支の方ではすでに艦は艦まづてゐる、而も艦面に居る艦は艦築を組り、着々抗日體制を整へてゐる、艦は艦台の眺望内に艦を入れてゐる、目標される全艦隊情勢は実に一觸即發だ、それにこつちとしては邦人が安全に引揚げるまでは納得に突力行使は出來ないし艦に一寸した事故でも與へてはいけない、北支の情勢は艦を流かす事件は勿論さ覺悟されてゐる、それに、我々は戰時艦として仕事は出來ない、艦は警備艦をいよ〳〵完成しつゝあるのを見る、我々はただあせりに驅ける、ジリジリする氣持といふのはこれだ、艦艇すべて、何へ、自分ソレ、艦艇自としての特殊の氣持に陷られた。

W少佐　それに手が出せないとは實に一觸即發だ、それにこつちとしては邦人が安全に引揚げるまでは納得に突力行使は出來ないし艦に一寸した事故でも與へてはいけない、北支の情勢は艦を流かす事件は勿論さ覺悟されてゐる、それに、我々は戰時艦として仕事は出來ない、艦は警備艦をいよ〳〵完成しつゝあるのを見る、我々はただあせりに驅ける、ジリジリする氣持といふのはこれだ、艦艇すべて、何へ、自分ソレ、艦艇自としての特殊の氣持に陷られた。

T大尉　八月十八日だつたか、いよ〳〵陸戰だ、第一遣外艦隊（艦隊）が編成されるから新聞人の乘艦を許可する、といふ發表があつたので、我々は勇み立つた、艦艇は艦艇の艦艇に乘艦して、艦艇は艦艇の艦艇に乘艦して、艦艇は艦艇の艦艇に乘艦して

臺灣日日新報
日本夕刊共十二頁
昭和十二年十一月三日
（第二版）（機密關係）（昭和十一年九月九日第三種郵便物認可）
臺灣日日新報社（以電話8）第一六三五五號

各部隊も渡河

蘇州河南岸の敵陣地へ

愈よ猛撃を加ふ

【上海一日發同盟】友軍の協力下に一日正午蘇州河の敵前渡河を開始した脇坂部隊は敵彈雨飛の中を工兵隊の果敢なる架橋に依り午後零時十五分完全に渡河し張家宅前面に到着した、後續部隊も續々渡河中である

【倪家楊にて一日發同盟特派員】脇坂部隊の蘇州河渡河成功に續いて下枝、富士井、伊佐の各部隊も續々渡河を完了し一日午後二時三十分〇〇部隊主力は完全に對岸に到着、張家宅、楊家宅の敵陣地猛撃を浴びせてゐる

楊家宅、張家宅を占領

【上海一日發同盟】果敢なる敵前渡河に成功した脇坂、下枝兩部隊は機銃をもつて頑強にする楊家宅、張家宅に突撃し午後二時五十五分完全にこれを占領、敵は無數の死體を遺棄して逃走した、我軍の損傷は僅少である

蘇州河の敵陣猛爆

（上海一日發同盟）陸軍航空隊は本早朝來地上部隊の攻撃に呼應し蘇州河南岸の敵に猛爆撃を加へてゐる、一方海軍航空隊〇〇機も陸軍の追撃部隊と協力し午前十一時蘇州河南岸附近の敵に猛烈な爆撃を加へた、この日蘇州河を渡河した地上部隊の進撃物凄く又後方砲兵陣地よりの巨砲も一彈毎に敵地に命中し晴雲星冥める江南の野に爆音、砲銃聲が響き渡つてゐる

陣地を捨てて敵は退却

【上海一日發同盟】三十一日來蘇州河の敵前渡河を强行しつつあつた〇〇部隊の前面蘇州河南岸の敵は一日正午頃漸次退却を開始し陣地を捨てて約五百米後方の越界路リンカーン路へ向け潰走した、周家橋、薛家墅に據る一部の敵は依然頑强に抵抗を續けて居り、我軍は目下步砲工協力の下に渡河を續行中である

河面に煙幕濛々

工兵隊が決死的架橋

敵は早くも浮足立つ

【上海一日發同盟】敵軍は一段と猛烈なる加へるその間數六十米の水上に工兵決死隊の架橋作業は始められてゆく、たちまち起る敵機關銃のラッパ、先發渡河〇隊は敵機關銃をうけて一旦一齊に野門を開いた、これに對し我軍は機關銃に續いて猛烈なる射撃を開始した、敵は我軍の主力及び下流部隊の渡河に對し猛烈なる射撃を加へて來たが、我軍の渡河は既に成功し敵は早くも浮足立つた模樣である

東京に大本營

各方面の意見一致

時局は早くも決死的段階

【東京一日發同盟】支那事變の戰果を速かに擴張し長期戰の根柢に方針を定めるため大本營を設置すべしとの聲が各方面に擡頭してゐるが、これに對し政府當局は目下のところ大本營設置の意向を有せず、從つて大本營設置に關する具體的研究も行はれてゐない模樣である、しかし事變の進展に伴ひ大本營設置の必要を痛感する向きも多く、政府當局としても大本營設置の場合を考慮中であるとの觀測が有力である

【東京一日發同盟】一日午後六時から首相官邸で開かれた五相會議は、支那事變處理に關する重要國策を審議決定したが、その内容は左の如くである

一、帝國は支那事變の速かなる解決を期するため、支那國民政府の反省を促すと共に、東亞の新情勢に即應する新興支那の建設を助成し、以て東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二、帝國は支那國民政府の反省を促すため、從來執り來つた諸般の措置に鑑み、今後は國民政府を對手とせず、帝國と眞に提携するに足る新興支那の建設を期待し、これを對手として調整を行ふ

三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

五十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

六十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

七十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

八十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

九十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百二十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百三十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百四十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百五十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百六十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百七十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百八十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

百九十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百二十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百三十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百四十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百五十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百六十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百七十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百八十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

二百九十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百二十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百三十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百四十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百五十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百六十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百七十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百八十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

三百九十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百二十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百三十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十二、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十三、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十四、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十五、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十六、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十七、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十八、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百四十九、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百五十、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百五十一、帝國は東亞の安定勢力たるの實を擧げんことを期す

四百五

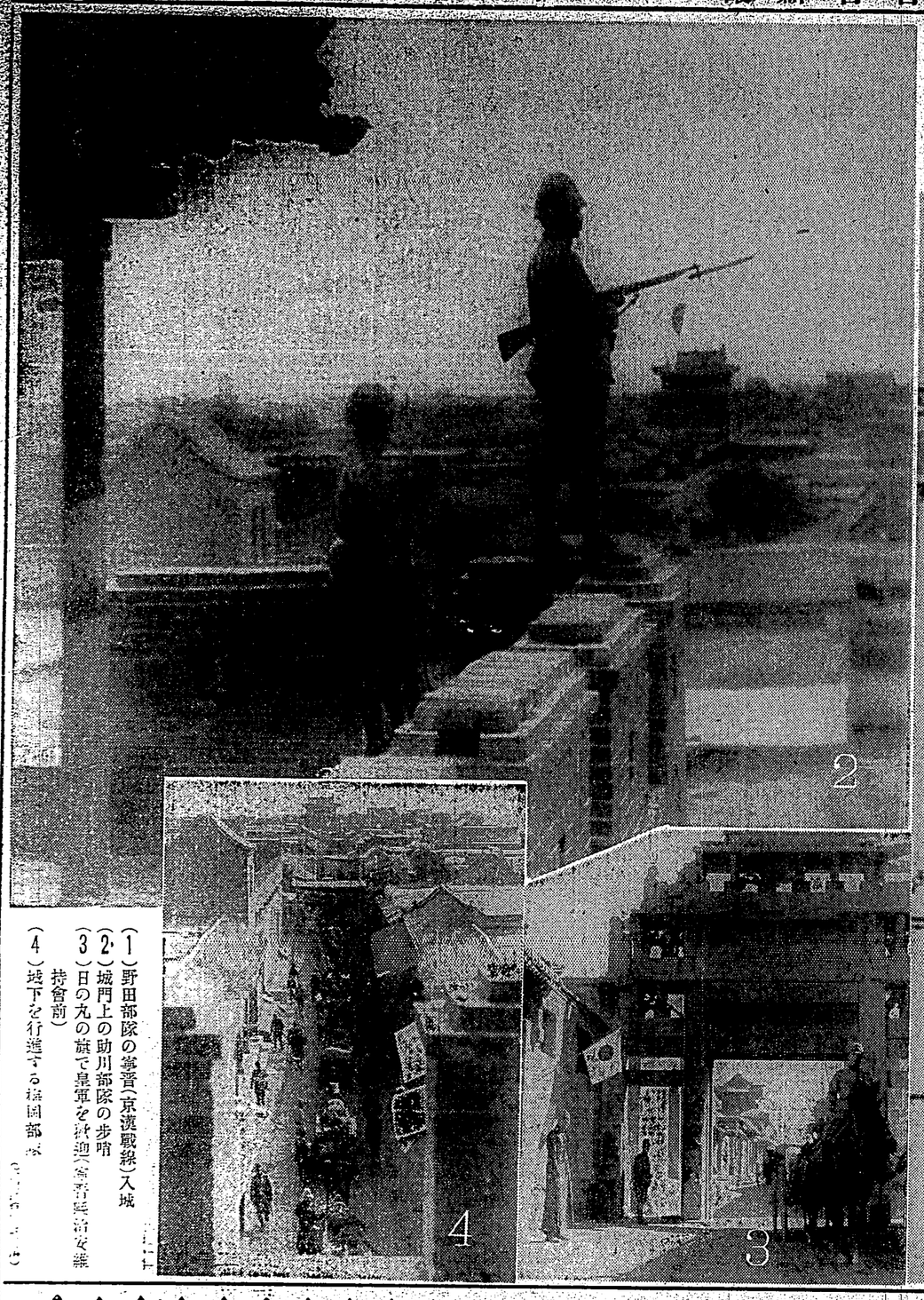
平和提携機關
南支那との
福大公司創立す
竹藤氏が代表取締役に就任
本店は臺北に支店は福州に

【臺北電話】臺灣と南支那との經濟的に文化的關係を促進し相互の共存同榮を圖らんとする株式會社福大公司の創立總會は昨紀念日午前十時四十分から臺北市公會堂に於て開催された、出席者は定刻から一番ケ一番迄代理、井出謹一郎氏、民間側から加藤吉郎社長、川村竹治氏、保田謙藏氏、池田三郎物產支店長、島田二郎殖產課長、野口貞藏理事、有田喜一郎氏、松本三郎支店長、大西一男氏、日下喜一郎理事、竹腰重丸氏、林獻堂氏、吉原政智氏、辻新次氏、平吉毅木氏、内藤熊太郎氏、辻本滿丸氏、内藤伊助氏（代理）二十九名、その株數六万五千（委任狀共）四十二名その株數六万五千、定刻より遲れ保留頭取は本會合主催に就て一場の挨拶なく次で創立委員長加藤吉郎氏より別紙の如き設立趣意書を中心として一般事務に關する一般事務を報告し、原案通り滿場一致可決、次で左の如く役員の選擧を行ひ、全部重任候補地視察團の件

設立趣意

一日の發起人總會で創立した株式會社福大公司の取締役支配人となつた、立木總督府殖產局長は明治四十五年の一つ橋出身で台灣民の友人であり、數年ニ亘り臺北支店にあつたことあり、其後臺灣銀行副頭取、臺灣興業會社專務取締役、臺灣拓殖會社副總裁、臺灣電力會社副總裁、臺灣製糖會社副總裁、臺灣化學工業會社副總裁、臺灣銀行監事、臺灣倉庫會社副總裁、臺灣鐵道會社副總裁、臺灣商工會議所副會頭、臺灣土地改良會社副總裁、臺灣拓殖會社副總裁、臺灣電力

晋寧へ入城



(1)野田部隊の晋寧(京漢戰線)入城
(2)城門上の助川部隊の歩哨
(3)日の丸の旗で皇軍を歓迎(晋寧県治安維持會前)
(4)城下を行進する福岡部隊